

■ 研究交流 ■

台湾大学における第2回化学科合同シンポジウムに参加して

竹内 重夫

Attending the Second Joint Symposium between National Taiwan University and Kanagawa University

Shigeo Takeuchi

<sup>1</sup> Department of Biological Sciences, Faculty of Science, Kanagawa University, Tsuchiya 2946, Hiratsuka, Kanagawa 259-1293, Japan

<sup>2</sup> To whom correspondence should be addressed. E-mail: takeuchi@kanagawa-u.ac.jp

本理学部化学科は台湾国立大学化学部と学術交流協定に従い、2005年神奈川大学に於いて第1回合同シンポジウムを、2006年12月23日台湾大学にて第2回合同シンポジウムを開催した。第2回シンポジウムの開催にあたって、理学部長杉谷教授より、化学科単科による学術交流を、理学部全体へと拡大するために、生物科学科のシンポジウムへの参加を勧奨された。生物科学科としては、教員の研究の進展を図るだけではなく、外国の大学との学術交流を通じて、大学院学生あるいは学部学生の勉学、研究のモチベーションを高めることができるので、喜んで参加させて頂くことにした。

幸い台湾大学化学科のシンポジウムを準備された陳竹亭(Jwu-Ting Chen)教授、および化学科長の牟中原(Chung-Yuan Mou)教授の御好意により、生物系の話題提供者として台湾大学生物科学院院長 羅竹芳(Grace Chu-Fang Lo)教授と当生物科学科の鈴木祥弘助教授および竹内重夫が参加できるようになった。合同シンポジウムにおいて、羅教授は台湾大学生命科学院の概要と、羅教授の研究室における甲殻類へのウイルス感染機構の分子生物学的な研究とを発表された。竹内が当生物科学科の教育体制、各研究室の研究内容を手短かに紹介した後、鈴木助教授が北極圏における藻類の生態学についての研究成果を報告し大いに関心を集めた。

羅教授が多忙であるため、生物科学院を訪問、会談することが出来なかったため、シンポジウムの昼食時に当生物科学科と台湾大学生物科学院との学術交流について話し合いを持ち、第3回以降、神奈川大学化学科が主催する台湾大学化学部との合同シンポジウムには、生物科学院のメンバーと当生物科学科のメンバーが参加すること、および羅教授の来日の際スケジュールが許す限り、当生物科学科でセミ

ナーをもつことを快諾された(下記 E-mail)。

今後、国際交流委員が中心になって、第3回のシンポジウムを今年度で開催するべく準備されることになるという。当生物科学科では鈴木祥弘助教授を中心とした協力態勢を整え第3回のシンポジウムを実りあるものとし、台湾大学との学術交流の流れを加速し、教職員の交流だけではなく、近い将来、両大学の大学院院生が研究成果を発表し、相互に討論することの出来るような基盤を築きたいと考えている。

羅竹芳(Grace Chu-Fang Lo)教授の E-Mail

Dear Prof. Takeuchi Shigeo,  
Thank you for your email. I was very glad to have you and your team visit us here in Taiwan, and I now have a much better understanding of the Biological Science Department in your university. I hope you also have a good overview of the sort of work we are now doing here at NTU, as well as the work we plan to do in the future.

I particularly appreciated the questions you asked about ethics in Asia, and I am optimistic that NTU will take your comments on board when we address this issue -- as we inevitably must. And the sooner the better!

Lastly, thank you very much for your kind invitation. I hope that NTU's College of Life Science will be able to send a group of scientists to attend the next symposium in Japan. And if I can come too, then I will be very glad to meet and talk to your students.

With best wishes for the New Year,  
Grace